

スタートアップ・エコシステム形成支援 採択プラットフォーム紹介

令和4年度開始～令和8年度終了予定



プラットフォーム名: (令和5年6月時点)
みちのくアカデミア発スタートアップ
共創プラットフォーム(MASP)

参画機関

主幹機関:東北大学 共同機関:弘前大学、岩手大学、秋田大学、山形大学、福島大学、新潟大学、長岡技術科学大学、宮城大学、会津大学、東北大学ナレッジキャスト 幹事自治体:仙台市

協力機関:青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、新潟県、南相馬市、八幡平市、産業技術総合研究所 東北センター、中小企業基盤整備機構 東北本部、新エネルギー産業技術総合開発機構(NEDO)、日本貿易振興機構(JETRO)、イスラエル大使館、Business Oulu、カリフォルニア大学バークレー校(米国)、エコールポリテクニク(フランス)、アーヘン工科大学(ドイツ)、オウル応用科学大学(フィンランド)、タリン工科大学(エストニア)、東北芸術工科大学、東北経済連合会、仙台経済同友会、東北電力、東北テクノアーチ、KDDI、エヌ・ティ・ティ・データ(NTTデータ)、東日本電信電話(NTT東日本)、菊池製作所、高砂熱学工業、アカデミックキャングスター、インディージャパン、スケールアウト、CIC Japan、ベンチャー・カフェ東京、フォースタートアップス、ツクリエ、ハッカズーク、US-JAPAN FORUM、七十七銀行、七十七キャピタル、MAKOTOキャピタル、東北大学ベンチャーパートナーズ、いわぎん事業創造キャピタル、FVC Tohoku、新潟ベンチャーキャピタル、東邦銀行、秋田銀行、三井住友銀行、三井住友信託銀行、みずほ銀行、みずほキャピタル、三菱UFJキャピタル、野村證券、第一生命保険、AgVenture Lab、Beyond Next Ventures、インキュベイトファンド、サムライインキュベイト、ブレイクポイント、リアルテックホールディングス、epiST、フューチャーベンチャーキャピタル、アイディーファーム、Spirete、Women's Startup Lab、監査法人トーマツ、あずさ監査法人

目指すスタートアップ・エコシステム

東北・新潟の10大学が、大学の研究成果・技術シーズを活用した大学発スタートアップを創出し、地域の産学官金一体となってスタートアップ・エコシステムを形成・発展し、地域外とも連携して、課題先進地域から国内外の課題解決に資する大学発スタートアップの創出を加速していく。

(1) 起業活動支援プログラムの運営

- みちのくGAPファンドの運営により起業活動を支援する。みちのくGAPファンド支援は、令和5年度～令和8年度を予定している(令和4年度は令和3年度補正予算を活用)。
- 申請前のeラーニング、伴走支援としてセミナー・ワークショップ開催や個別相談・メンタリング支援、拠点都市等と連携のDEMO DAYを開催する。
- 令和8年度末までにスタートアップ創出+200社を目標とする。

(2) アントレプレナーシップ人材育成プログラムの開発・運営等

- EDGE-NEXT参加大学の経験・ネットワーク等を活用して、東北・新潟全域でアントレプレナー教育を実施する。
- 動機付け・意識醸成、コンピテンシーの形成、社会実践の各段階で、参加大学が役割を分担し、可能なものについては、各大学の講座の相互乗り入れや統合・一本化を図り、共通プログラムを実施する。
- 令和8年度末までに受講者10,000人/年を目標とする。

(3) 起業環境の整備

- 各大学に起業相談窓口を設置し、起業関係の学内規程の共有・整備をすすめる。SCORE 拠点都市環境整備型で整備の東北コンソーシアム試作コーディネートオフィス(TPCO)を運用し、公設試験場や民間企業等と連携する。
- 以上の取組を強力に推進するために、「みちのく大学間起業支援室ネットワーク(MuNES)」を設立・運用する。

(4) 拠点都市のエコシステムの形成・発展

- 東北・新潟の広域プラットフォームを形成し、各主体の役割として、大学はアントレ教育・事業性検証・大学の技術の活用等を、自治体は事業環境整備・ビジコン等イベント開催・実証フィールドの活用等を、金融機関・VCはファイナンス、メンタリング等を、産業界は共同事業化、人材・資金支援等を果たし、エコシステムを形成していく。

活動成果

みちのくGAPファンド採択課題に対して、セミナーや個別相談会、カベウチメンタリングなどの伴走支援を行った。アントレプレナーシップ教育については、大学毎の教育プログラムとの連携、相互乗入の実施可能性検討によるベストプラクティスの共有等を行った。起業環境の整備については、各大学相談窓口(担当部署や担当等)を確認決定し、各大学の規定内容の確認と今後の整備計画策定、プロトタイプデザイン教育研修やソフトIT関連の研修等を行った。エコシステム形成のため、イベントを多数行った。

スタートアップ・エコシステム形成支援 プラットフォーム紹介

令和3年度補正予算による支援 令和4年度開始～令和4年度末 終了



プラットフォーム名: (令和5年6月時点)
みちのくアカデミア発スタートアップ
共創プラットフォーム(MASP)

参画機関

主幹機関:東北大学 共同機関:弘前大学、岩手大学、秋田大学、山形大学、福島大学、新潟大学、長岡技術科学大学、宮城大学、会津大学、東北大学ナレッジキャスト 幹事自治体:仙台市

協力機関:青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県、新潟県、南相馬市、八幡平市、産業技術総合研究所 東北センター、中小企業基盤整備機構 東北本部、新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)、日本貿易振興機構(JETRO)、イスラエル大使館、Business Oulu、カリフォルニア大学バークレー校(米国)、エコールポリテクニック(フランス)、アーヘン工科大学(ドイツ)、オウル応用科学大学(フィンランド)、タリン工科大学(エストニア)、東北芸術工科大学、東北経済連合会、仙台経済同友会、東北電力、東北テクノアーツ、KDDI、エヌ・ティ・ティ・データ(NTTデータ)、東日本電信電話(NTT東日本)、菊池製作所、高砂熱学工業、アカデミックキャングスター、インディージャパン、スケールアウト、CIC Japan、ベンチャー・カフェ東京、フォースタートアップス、ツクリエ、ハッカズーク、US-JAPAN FORUM、七十七銀行、七十七キャピタル、MAKOTOキャピタル、東北大学ベンチャーパートナーズ、いわぎん事業創造キャピタル、FVC Tohoku、新潟ベンチャーキャピタル、東邦銀行、秋田銀行、三井住友銀行、三井住友信託銀行、みずほ銀行、みずほキャピタル、三菱UFJキャピタル、野村證券、第一生命保険、AgVenture Lab、Beyond Next Ventures、インキュベイトファンド、サムライインキュベイト、ブレイクポイント、リアルテックホールディングス、epiST、フューチャーベンチャーキャピタル、アイディーファーム、Spirete、Women's Startup Lab、監査法人トーマツ、あずさ監査法人

目指すスタートアップ・エコシステム

東北・新潟の10大学が、大学の研究成果・技術シーズを活用した大学発スタートアップを創出し、地域の産学官金一体となってスタートアップ・エコシステムを形成・発展し、地域外とも連携して、課題先進地域から国内外の課題解決に資する大学発スタートアップの創出を加速していく。

(1) 起業活動支援プログラムの運営

- みちのくGAPファンドの運営により起業活動を支援する。令和4年度のみちのくGAPファンド支援は、令和3年度補正予算の財源の活用により金額・件数を大幅に増やし、その起爆剤効果をプラットフォーム全体にもたらす。
- 申請前のeラーニング、伴走支援としてセミナー・ワークショップ開催や個別相談・メンタリング支援、単独DEMO DAY及び拠点都市等と連携のDEMO DAYを開催する。
- 令和4年度末までにスタートアップ創出+40社を目標とする。

(2) 起業環境の整備

- 各大学に起業相談窓口を設置し、起業関係の学内規程の共有・整備をすすめる。SCORE 拠点都市環境整備型で整備の東北コンソーシアム試作コーディネートオフィス(TPCO)を運用し、公設試験場や民間企業等と連携する。
- 以上の取組を強力に推進するために、「みちのく大学間起業支援室ネットワーク(MuNES)」を設立・運用する。
- 令和3年度補正予算では、プロトタイプデザイン教育研修の新規プログラム開発を行い、プロトタイプ作製過程の実例及びノウハウ等をプラットフォーム内に提供する。

活動成果

みちのくGAPファンドについては、合計45件の申請があり、書類審査および審査会を経て29件を採択した。採択案件についてみちのくDEMODOYを開催した。起業環境の整備については、各大学相談窓口(担当部署や担当等)を確認決定し、各大学の規定内容の確認と今後の整備計画策定、プロトタイプデザイン教育研修やソフトIT関連の研修等を行った。